

甲州市立神金小学校「学校応援団(地域との連携)」

《神金小学校での取り組み》

地域とともに、地域に根差した教育活動の推進を目指す神金小学校は、豊かな自然環境に恵まれた小規模校である。少子高齢化が進む地域の一つであるが、保護者や地域住民の学校教育への理解と関心は高く、地域と学校が一体となった教育活動は大きな成果を上げている。

神金小では、地域の自然・歴史・文化を活用した「新たなふるさと学習」、育成会・公民館・社会福祉協議会と連携した活動、地域の方が主催するシンポジウムに子供たちが参加する活動が展開されている。そこには、地域を愛し、地域のために行動する子供の姿、地域総参加で子供の健全育成を図る地域の方の姿がいつも見られる。

《神金小学校での事例》

「神金シンポジウム」への参加

日 時：平成30年11月13日（火）午後1時40分～2時40分

場 所：神金公民館

参加者：神金小児童（2年生6名、4年生6名） 神金小保護者

塩山郷土研究会神金支部、公民館職員

活動内容：

活動の始まりは、5年前に歩け歩け大会の時に地域の方がポイント説明を子供に依頼したことによる。子供たちは、シンポジウムの主催である塩山郷土研究会神金支部の方からの要請を受けて参加をしている。「新たなふるさと学習」の一環として学校が関わるようになってきてから今年が4年目となるが、子供たちにとっては、このシンポジウムは学習成果を発表(発信)できる大切な場となっている。

また、大人と子供が共有するこの時間は、大人にとっては、シンポジウムの価値や神金の良さをあらためて子供の視点から知る機会となり、子供たちにとっては、「新たなふるさと学習」でいろいろと教えてもらったり、お世話になったりしてきた地域の方に感謝する機会になっているとともに、小規模校の固定化された人間関係の中で、世代間交流することによって、表現力育成の機会ともなっている。

学校が地域にお願いをして子供たちの活動を支援してもらうことは多々あるが、地域の求めに応じて子供たちが学校を飛び出して学ぶ活動は、画期的である。神金小の実践は、これからの地域と学校の在り方について大きな示唆をあたえてくれている。

